

家族性腫瘍関連遺伝子検査について

家族（血縁者）に同じ種類、もしくは特定の組み合わせの腫瘍（がん）が集積して発生する「家族性腫瘍」は、がん全体の5～10%を占め、この一部に遺伝性のがんがあることがわかっています。

詳しくは
主治医又は
がん相談室
までお問い合わせ
ください。

※当院で対象となる

遺伝性腫瘍に対する検査項目

遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）



BRCA1遺伝子・BRCA2遺伝子検査

リンチ症候群 ※1



MMR遺伝子検査

※1 患者、家系内に大腸、胃、小腸、胆道、膵、子宮内膜がん等さまざまな悪性腫瘍が発生する遺伝性腫瘍症候群です。

家族性腫瘍の特徴には、家系内で同じ種類のがんを発症した人が複数存在する、若年で発症する、複数の特定臓器にがんを発症する、同じがんを何回も発症する、といったことがあります。

当院では、いわゆる「がん家系」や若年での発症、多重多発がん、家族性腫瘍の遺伝学的検査などに対応いたします。また一般的な外来診療とは異なり、ご自身に病気がなくても、家族のがんや遺伝、遺伝子検査についての話を聞いてみたいという相談にも応じています。

遺伝子検査の結果は、患者さんに適した医学的管理を検討する際の有用な情報となる場合がある一方で、ご本人に原因遺伝子の変化が見つかり、遺伝性のがんであることがわかった時には、家族（血縁者）の遺伝子検査はどうしたらよいか、さらには結婚や出産、仕事、保険のことなどについても考える必要が生じることも少なくありません。そのため、遺伝子検査を受けるかどうかを選択する際には、一人ひとりの状況に応じた遺伝子検査のメリット・デメリット、病気の早期発見・早期治療、予防の意義を十分に話し合った上で、ご自身の意思で決めていただけるように支援します。